令和6年度 学校評価報告書

小樽市立望洋台中学校
校長 山本 俊次

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価
A: 100%以上
B: 80%以上100%未満
C: 80%未満

【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価
◎: 適切である
○: おおむね適切である
△: 適切でない

1 本年度の重点目標

自ら学び、共に考え、課題を解決できる生徒の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	生徒アンケート「授業において、自ら学び、共に考え、課題を解決しようと努力した。」に対する肯定的回答80%以上	A	生徒アンケート結果86% スケジュール帳を活用し、自主・自律的な学習(学習のPDCA)の定着や、コミュニケーション能力の育成に取り組んだ。授業の中で「交流の場」を意図的に設けることで、協働的に学ぶ力はついてきている。	◎
	特別支援教育の充実	教員アンケート「ユニバーサルデザインを意識した授業づくりを進めることができた。」に対する肯定的回答70%以上	B	教員アンケート結果63% 研修係が稲穂小で開催されたUDLに関する講演会に参加し、職員に還元した。また、校内研修の授業交流を通して、学び方を見直し、ICT機器の活用を進めた。	◎
	国際理解教育の充実	生徒アンケート「英語の授業において、積極的にコミュニケーション活動に参加し、話す力・聞く力が身についた。」に対する肯定的回答75%以上	B	生徒アンケート結果73% ALTやICTも活用して授業の充実を図ってきた。デジタル教科書やGoogle翻訳機能を有効活用し、コミュニケーション能力を高めてきた。	◎
	理数教育の充実	生徒アンケート「理科の勉強は好きですか。」に対する肯定的回答70%以上	B	生徒アンケート結果69% 身近な自然現象に対し、仕組や原因を知りたいと思わせるような課題の提示を行ってきた。また、随所に知的好奇心を刺激する掲示や展示を行い、自然現象に対する興味関心を高める工夫を行った。	◎
	情報教育の充実	生徒アンケート「インターネットを利用する際、情報モラルを意識している。」に対する肯定的回答80%以上	A	生徒アンケート結果88% 情報モラル教室や様々な啓発物で指導を継続している。新入生保護者会でも、関係機関を招いて、SNS利用に関する危険性について説明している。	◎
	キャリア教育の充実	生徒アンケート「将来になりたい自分について、考えることができた。」に対する肯定的回答を70%以上	B	生徒アンケート結果62% 総合的な学習の時間のテーマを「将来の自分探し」とし、各学年、旅行的行事とも関連させて取り組んだ。また、外部講師を活用し、様々な角度から職業について考えるきっかけを作った。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニ研修や活用の交流を通してICT利活用に向けた知識・理解を高め、より一層の「個別最適な学び」・「協働的な学び」の構築を図る。 ○多様な学習者に対応した教育活動を進めるために、特別支援教育に関する理論研修や事例研修を重ね、一人ひとりに合った学び方の展開に努める。 ○英語科については、デジタル教科書やICTの活用法について、さらに研修を深め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ○総合的な学習の時間について、小学校からの系統性をもたせるとともに、より探究的な活動へと進化させていく必要がある。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育UDLの理解について、研修会には研修係のみの参加であったので、理解を深めるためには環流だけではなく、全員で参加するなど、研修の方法について検討してほしい。 				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	生徒アンケート「自分には良いところがある」に対する肯定的回答80%以上	B	生徒アンケート結果75% 年間を通して生徒会書記局を中心に、一人ひとりが主役になる取組を取り入れ、自己肯定感・自己有用感を高めてきた。	◎
	ふるさと教育の充実	生徒アンケート「自分の暮らす地域や街に関心がある。」に対する肯定的回答60%以上	B	生徒アンケート結果56% 1年生の徒歩研修では小樽を、2年生の宿泊研修では北海道について学ぶ機会を設定し、ふるさと教育の充実を図った。	◎
	読書活動の推進	生徒アンケート「2ヶ月間で1冊以上、(活字の本)を読んだ。」に対する肯定的回答60%以上	B	生徒アンケート結果55% 昼休みの図書館開放だけではなく、朝読書の時間を設定し、読書活動を推進した。電子書籍の試行も行った。また、図書館司書とも協働し、図書環境の充実を図った。	◎
	体験活動の推進	生徒アンケート「潮ねりこみや運河ロードレース、その他地域における活動などの体験活動に積極的に参加した。」に対する肯定的回答50%以上	C	生徒アンケート結果33% 潮ねりこみや運河ロードレースに参加した。昨年度よりも多い参加人数となり、少しずつ呼びかけの成果が出てきている。	○
	コミュニケーション能力の育成	生徒アンケート「授業中の話し合い活動を通して、自分の考えを組み立て、見方や考え方を広げたり深めたりすることができた。」に対する肯定的回答70%以上	A	生徒アンケート結果89% 各授業において「交流する場」を意図的に設け、話し合い活動を推進してきた。得意とするコミュニケーション活動の更なる充実を図った。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	生徒アンケート「学校はいじめを許さず、安全安心な学校づくりに向けた取組に努めていると思う。」に対する肯定的回答90%以上	B	生徒アンケート結果88% 生徒会活動としての「挨拶活動」や「いじめゼロフォーラム」など、心の成長を促す日々の取組を大切にしていた。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間を中心に、小樽への関心を喚起できるような学びの機会の充実と工夫改善に努める。 ○生徒会書記局を中心とした呼びかけを工夫し、地域における活動への積極的参加を促す。 ○日常的な生徒会活動を通して、仲間を思いやる気持ちや自己肯定感・自己有用感を高める取組を実施していく。 ○読書活動については、文化委員会や図書館司書と連携し新刊や多種多様な本に出合う機会を設けたり、朝活動の時間を有効に活用したりするなどして、活字に触れる機会を多くもてるようにする。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の推進について、目標の数値には達してはいないが、33%の肯定的回答は評価すべきである。地域における活動に対し、徐々に参加者が増えているので、関係者としては喜ばしいことである。町会の活動と連携するなどして、豊かな心の育成をさらに推進してほしい。 ・朝読書について、それぞれの本のボリュームに違いがあるので、数値目標について検討が必要である。 				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	生徒アンケート「学校は、生徒に体力や運動習慣をつけさせる取組に努めていると思う。」に対する肯定的回答90%以上	B	生徒アンケート結果83% 通常の体育の授業に加え、昼休み等を活用した体育行事も実施し、生徒が主体的に運動したくなるような働きかけを行ってきた。また、一校一実践(リズム縄跳び)を通して、基礎的な運動能力の定着を図っている。	◎
		食育の推進	生徒アンケート「自分は食べ物に気をつけたり、規則的な生活を行うよう、健康に気をつけて生活している。」に対する肯定的回答80%以上	B	生徒アンケート結果72% 毎週月曜日を「手帳の日」として、スケジュール手帳に、反省と計画を記録させ、生活習慣を振り返らせるようにしている。適宜、手帳を回収し、励ましの声かけを続けている。	◎
		健康教育の充実	生徒アンケート「学校は、生徒の健康や食生活に気を付けるよう指導に努めていると思う。」に対する肯定的回答80%以上	A	生徒アンケート結果87% 食育講座を実施し、中学生にとって必要なカロリーや栄養成分について考えた。また、海難防止・心肺蘇生講習会を行い、身近な事故の防止に対する知識を身につけさせた。	◎
改善方針		○今後も、今年度より配置されている体育授業実践スペシャリストを有効活用し、体力と技能の向上を図る。 ○食生活や生活リズムに関することなどについて、学校だよりや保健だより、HPなどで啓発するとともに、スケジュール手帳を用いた生活習慣の指導をより充実させていく。				
学校関係者評価委員による意見		・小中一貫で取り組んでいる「リズム縄跳び」は、特色のある実践で素晴らしい。今後も継続・発展させ、基礎体力の向上を図ってほしい。 ・食育や健康教育のために外部講師を招聘して学びを深めているのは良いことである。今後も継続してほしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケート「学校は、学校だよりや学校HP、メール等を通じて学校の様子を伝える努力をしている。」に対する肯定的回答70%以上	A	保護者アンケート結果100% テル配信やホームページを通して、学校だよりや啓発資料を配信するとともに、子どもたちの活躍や学校の取組を広く発信してきた。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	CSと連携した取組を複数回実施	A	Doハグ研修会を行うなど、CS活動の活性化に向けて、学校運営協議会を開催した。熟議を通して、望洋台地区に必要なCSとしての取組について話し合うことができた。	◎
改善方針		○今後も、学校だより、学年・学級だよりを通して、学校生徒の取組を広く発信していく。 ○CSの熟議を通して、望洋台地区人材バンクを確保していく。				
学校関係者評価委員による意見		・CS委員や町内会回覧板に学校だよりを配付してくれているおかげで、学校の様子がよく分かった。 ・地域人材バンクについて、今年度リクエストを聞けたので、今後調整していきたい。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	教員アンケート「小中一貫教育推進の取組が昨年度よりも充実した。」に対する肯定的回答が70%以上	A	教員アンケート結果91% 組織の見直しを行い、またミートを活用して分掌部会の効率化を行った。情報交換の活性化、また授業交流を通して小中の課題を見直し、強みをさらに伸ばすことができている。	◎
		教育環境の整備・充実	生徒アンケート「学習指導員などを活用した放課後学習会や夏冬休み学習会は役に立った。」に対する肯定的回答70%以上	B	生徒アンケート結果61% 日々の放課後学習に加え、テスト前のStudy Hallや、夏季冬季学習会を開催した。参加者は各自のペースで学習に取り組んできた。今年度においては、延べ769人の参加者を数えた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教員アンケート「校外での研修会・研究会に年5回以上参加した。」に対する肯定的回答80%以上	A	教員アンケート100% リモート方式やオンデマンド方式なども活用し、すべての職員が目標回数の研修に参加できた。	◎
		学校運営の改善	教員アンケート「校務運営委員会を核とした学校組織(分掌部会、学年部会、特別委員会など)の取組により学校改善が進んだ。」に対する肯定的回答70%以上	B	教員アンケート63% 分掌部会・学年部会の前に開催する校務運営委員会にて、議題の調整、骨子の検討を進めることができた。ただ、一部の教員に仕事が偏っている部分もあるので、個々の進捗状況を把握し、作業を再分担していく必要がある。	◎
		学校安全教育の充実	地域ボランティアと連携し、登下校時の見守り活動を年8回以上	A	町内会の交通安全登校見守り活動に合わせ、ローソン交差点付近において、二十数回ほど声かけ活動を行った。また、横断歩道設置に向けた取組を町内会と連携して行った。	◎
改善方針		○放課後学習、昼学習が定着してきているので、今後も広く発信し、時間を有効的に活用して学べるような教育環境の充実を目指す。 ○校務運営委員会、部会、職員会議の流れを確立させるとともに、ICTを活用した校務の効率化を図る。				
学校関係者評価委員による意見		・クマ出没の際などには、町内会のLINEを通じて地域に発信し、見守り活動に協力できるので、活用してほしい。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		文学館や図書館、美術館、総合博物館、その他各種社会教育施設の主催する事業へ複数回参加	A	各種社会教育施設の主催するコンクールや展覧会に作品を複数回出展し、入賞するなど優秀な成績を収めた。また、職員も各種事業に参加することで、教養を深め、生徒に還元することができた。	◎	
改善方針		○今後も、各種社会教育施設の事業を注視し、積極的に参加を促す。 ○生徒の取組の様子を広く発信し、自己肯定感を高めるはたらきかけをする。				
学校関係者評価委員による意見		・文化部を中心に様々な事業に参加していることは素晴らしい。優秀な成績を収めているのも、継続した取組があつてのことだと思う。				